



Pierre-Joseph Redouté

ピエール＝ジョゼフ・ルドゥーテ【Pierre-Joseph Redouté】は、1759年に現在のベルギー南東部の町サン・ユベールで生まれました。13才より画家修行の旅に出たルドゥーテは、大変な評判を得ていた「花の画家」ホイスムの作品に出会います。23才でパリに移り住むと、王立植物園に足繁く通って花々を描くことに情熱を傾けました。そして王立植物園で植物図譜制作の仕事に携わったルドゥーテは、すぐにその実力を認められ、ルイ16世王妃マリー・アントワネットの博物蒐集室付画家となったのです。

その後、フランス革命を経て、バラ栽培に情熱を燃やしたナポレオン皇妃ジョゼフィーヌが、世界中からマルメゾン宮殿に集めたバラをルドゥーテに描かせました。そこで誕生したのがルドゥーテの代表作「バラ図譜（Les Roses／1817～24年）」です。こうして、ますます名声を得るよ

うになったルドゥーテは、上流階級の貴婦人達からは絶大な人気を集めます。「パリ中のすべての女性が、ルドゥーテの生徒か信奉者だ」といわれたほどでした。この時期は、「ユリ科植物図譜（Les Liliacées／1802～16年）」、「美花選（Choix des plus belles fleurs／1827～33年）」など、彼の代表作が次々と制作され、名実ともに「花の宮廷画家」ルドゥーテの絶頂期と言えます。

ルドゥーテの作品は、彼の天賦の画力によって認められているだけではなく、彼が駆使した独特の点刻彫版（スティップル・エングレーヴィング）多色刷り銅版画技法によって、従来の植物図譜版画から輪郭線を可能な限り排除し、きめ細かな色彩の濃淡によって自然な花々の美しさを表現するという、画期的な手法を確立したことも、ボタニカル・アート史上における大きな功績として、高く評価されています。

今回は、「バラ図譜」及び「美花選」より選定した作品と肉筆画2点の展示となり、前期と後期で展示替えを行ないます。81年の生涯を通じて、かたくななまでに花だけを描き続けたルドゥーテの芸術は、彼の花に対する深い愛情が反映されているからこそ、時代を超えて人々の心を魅了し続けているのです。



Rosa Gallica Versicolor
ロサ・ガリカ・ウェルシコロール



Dianthus caryophyllus
カーネーション／ナデシコ科



Rosa Sulfurea
ロサ・スルフレア



Hippeastrum puniceum
ホンアマリス／ヒガンバナ科

6/9(金)17:30～ 八戸学院短期大学客員教授 三村三千代氏講演会

ルドゥーテ・チェンバロコンサート開催

4/22(土)・23(日)：中田 聖子／鷹山 美緒

5/20(土)・21(日)：佐藤 理州／鷹山 美緒

6/17(土)・18(日)：中田 聖子／鷹山 美緒



中田 聖子
(チェンバロ)



鷹山 美緒
(ソプラノ)



佐藤 理州
(チェンバロ)

※各日11時と14時30分の2回、それぞれ約30分間の演奏となります。
※入館料のみでどなたでもお聴き頂けます。(要入場券提示)
※演奏予定は変更される場合がございます。予めご了承ください。



会場には、ルドゥーテの絵画を模写したチェンバロを展示するとともに、彼が生きた時代のバロック音楽を実際に演奏いたします。
マリー・アントワネットが作った歌もお聴きください。

Redouté Cembalo

ポストカード、食器、トートバッグなど様々なルドゥーテグッズを
展示会場で求められます。



ルドゥーテのための
チェンバロアルバム(CD)
「Le Temple de l'amour
(愛の神殿)」も販売



チェンバロ：中田聖子
ソプラノ：鷹山美緒

薔薇 de present バラ(モチーフにされたものであれば何でも可)を身に付けて来館された方に「心ばかり」をプレゼント。なくなり次第終了します。

しちのへバラまつり開催
6月17日(土)～7月9日(日)
東八甲田ローズカントリー



次回特別展予告 7月15日(土)～9月3日(日)
矢口高雄の世界「天翔ける童心」展
釣りキチ三平を始め、これまでに矢口高雄が描いた作品を
幅広く展示し、漫画家としての軌跡をたどります。

道の駅しちのへ 七戸町文化村
七戸町立 鷹山宇一記念美術館
〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94 Tel: 0176-62-5858
<http://www.takayamamuseum.jp>